

瀧

熊谷九寿

制作年：1942(昭和17)年

サイズ：33.4×24.3cm

材質：油彩、カンヴァス

所蔵：中津市木村記念美術館

1993(平成5)年中津市に寄贈される。



昭和17(1942)年に美術団体国画会（こくがかい）の会員となった熊谷は、翌年この「瀧」を国画会展に出品しました。中津市所蔵品の中で最も古い国画会展出品作です。白く浮かび上がる水流は岩にぶつかるのでしょうか、画面下方で水飛沫をあげており、豊かな水量と激しい流れを感じさせます。熊谷にとって瀧は生涯描きつづけたモチーフの一つでした。師と仰いだ梅原龍三郎には「滝の絵では形よりも音を表現したい」と語ったとされます。目に見える形よりも、目に見えないものの表現に興味が向いていた事がうかがえます。この瀧のように水流をクローズアップしてとらえ、一時としてとどまらない水そのものを描こうとする姿勢は、熊谷の洋画における本質的な部分を示しているように思われます。絶えず揺れ動き、とどまらず、迫るダイナミズムの中に感じる自然の真理、これをいかに油絵で表現するか、この問題に向き合うことで、熊谷は独自の表現を得ていきました。この「瀧」はその初発的なものとして興味深い作品です。